とうきょう
すくわくプログラム

1歳児クラス

～色水遊び～

夏になり、子どもたちは水への関心がありましたが、暑すぎて外での水遊びができないため、室内での色水遊びに発想を転換。色の変化を感じ取り、更に手先の発達も促せるような遊びをしていきたいと思いました。

≪１回目≫　８月８日（金）

活動

・子どもたちと一緒にペットボトルに水と食紅を入れて色が付くところを見る。
・色を混ぜ合わせて遊ぶ。
・カップからカップへと移し、手先や手首を使って遊ぶ。

準備物

・ペットボトル　・透明のカップ　・食紅　・水

ペットボトルを使い、色水を作って遊びました。色水の作り方も①最初から水を入れたペットボトルに食紅を入れる、②空のペットボトルに食紅を入れてから水を入れるの２通りの方法でしました。どちらも食紅を入れるところは子どもたちに手伝ってもらいました。じわ～っと色がついていくのを興味深く見ていました。　その後はカップをたくさん用意して、カップからカップへと水をあけ移したり、色を混ぜて変化することも発見したりしていました。

最初から水が入っている時はじわ～っと色が広がり、食紅を先に入れておいた方は水を入れた時に一気に下から色が付き、子どもたちにとって、目の前で水の色が変わっていくのは、まるでマジックのようで驚きの表情が見られました。色水と色水を混ぜ合わせると色も変わり、そのことにもまた驚きます。カップからカップへと移す際には手首の動かし方がまだぎこちなく、こぼしてしまう子が多くいました。

≪２回目≫　８月１５日（金）

活動

・子どもたちと一緒にペットボトルに水と食紅を入れて色が付くところを見る。
・色を混ぜ合わせて遊ぶ。
・カップからカップへと移し、手先や手首を使って遊ぶ。

準備物

・ペットボトル　・透明のカップ　・食紅　・水

　ペットボトルに食紅を入れると、上から下に色がにじみ混ざっていく様子を、興味津々で観察していた子どもたち。完全に混ざり合うまでペットボトルを上下に振っている姿もありました。また、色のリクエストをする子もいました。カップからカップに色水を注いで、初めのうちは上手く注ぎ入れることができなくても、何回も繰り返していくうちに上手になっていった子ども達です。

　色水を作るだけではなく、カップからカップへと移して遊ぶことを多く取り入れました。子どもたちがここだと思ってカップを傾けてみても、実際にはほとんど空のカップには入らずこぼしてしまうことが多くありました。その際に手首をねじって上手く使えない様子も見られます。

　色が変わると不思議そうにしたり、嬉しそうにしたり、楽しくて何度も混ぜていると、黒っぽくなってしまうこともありました。

　水が手にくっつくような感触を確かめる子もいました。

≪３回目≫　８月２１日（木）

活動

・色を混ぜ合わせて遊ぶ。
・カップからカップへと移し、手先や手首を使って遊ぶ。
・れんげを使い、色水をすくってみる

準備物

・ペットボトル　・透明のカップ　・食紅　・水
・れんげ　・桶

色水遊びでは、赤、緑、青、黄色を使って混ぜたり、自分のカップに入れたりして遊びました。自分のカップに水を入れていく中で、色が混ざっていく様子を見たり、混ざって色が変わったことに気づき「みてみて！」と保育士に伝えたりする姿がありました。

色水を作るだけでは遊びに飽きてくるので、れんげや桶を使い、遊びに変化を付ける。また小さいカップから大きい桶に水をあけ移すことで手首をつかい、こぼさず移す成功体験を積むことができました。小さいカップに戻っても手首の動きに気をつけてあけ移す様子がありました。

れんげですくう事でも手首を使っていました。

大きい桶に小さいカップの色水を入れただけでは量が少なく、色はほとんど変わりません。変わると思って入れたのに、変わらないので、そこもまた不思議そうにする様子もありました。

≪４回目≫　９月５日（木）

活動

・色を混ぜ合わせて遊ぶ。
・カップからカップへと移し、手先や手首を使って遊ぶ。
・れんげを使い、色水をすくってみる

子どもたちからの遊びの発展と発見

水が溢れる感覚、吸い付く感覚、浮く感覚を感じる

準備物

・ペットボトル　・透明のカップ　・透明の平たい大き目の容器　・食紅　・水

色水遊びをしました。今日も水の入ったペットボトルを見ると早く遊びたい気持ちでいっぱいの子どもたち。カップからカップへとあけ移す見本を見せるとじーっと注目していました。ジャーと流れる水の音に注目した子もいます。両手でカップを持ち、水をあけ移してみます。カップを当てる位置で成功したり、失敗したりしますが、夢中になってしていました。大きめの容器に色水をたくさん入れて、レンゲですくってカップに入れて遊んだお友だちもいます。そのうちに大きさの違うカップを使っていたので大きいカップに色水を入れて、小さいカップで押してみると色水が溢れることを発見。他のお友だちにも伝染し、みんなやってみようとします。更に押していたら、水に押し返される感触を感じたり、ギリギリのところまで色水を入れたら、少しカップから膨れ上がるように見えたり、手を入れたら溢れる、水がクルクルと回る、四角い容器は角に水を集めたらあけ移すことができる等など、遊びの中からたくさんの発見をしていました。保育士の顔を見て「たのしーねー」と言う子もいました。

繰り返して遊んだことで、色水を使って遊ぶことへの期待感が高まり、色水をすくって遊ぶことへの見通しが持てました。すくって遊ぶだけではなく、こんなこともできるかなという子どもたちの遊びへの工夫が次々と水の様々な感触を発見していくことに繋がりました。子どもたちは言葉では言い表せないような感覚をたくさん感じました。